



沖縄総合事務局 局長

竹澤 正明

皆様、あけましておめでとうございます。
心新たに、新年をお迎えのことと存じます。

私は、将来を考えるに当たっては、新たな環境を十分考慮に入れるとともに、過去にも思いをいたして、次の一步を踏み出すことが重要である、と思います。沖縄の経てきた歴史を踏まえ、私ども総合事務局の責務の重さに改めて身の引き締まる思いがいたします。

年頭に当たり、総合事務局長として、三つの目標を申し上げ

たいと思います。

第一は、総合事務局の名前にある、「総合性」の発揮です。当事務局には、総務、財務、農林水産、経済産業、開発建設、運輸、の六つの部があります。しかし、たまたま、六つの部が同じ庁舎にいる、というだけのことでは、成果が挙がっているとは言えません。これらの部が、知恵を結集して、事務局独自のプロジェクトの打ち出しもありましようし、あるいは、県や市町村に知恵出しを申し上げます。目下、具体の案について、その仕込中であります。

第二は、つね日頃から、県の方々との意見交換やアイデアの交換を一層行いたい、ということです。昨年7月14日の就任以来、努めて、県下各地を訪問させていただいておりますが、開発分野にせよ、

Greeting

年頭のご挨拶

農業分野にせよ、県、市町村、独立行政法人、国の出先の間の、良い連携ができていところには、柔軟なアイデアがあり、これを支えるネットワーク、そして自由な議論をするときの笑顔があります。省みて、もつと県の方々と接点を持つことに怠りなかったか、と思いますと、公式・非公式を含め、ふだんからの意見交換に一層努めてまいりたいと思います。

第三は、事務局長が県下の全市町村長さんにお目にかかって、大局的な見地から、ご意見なり、課題なりを伺うことです。総合事務局は、つね日頃、意義ある仕事をしているとの自覚をもっていることは、もとよりであります。各市町村の方々に十分理解されているかを測る事が重要でありますし、また、各地元のご意見を事務局長がファース

トハンドに把握することも大事であると考え、昨春秋から、県内各市町村の訪問を開始しています。今年は、一層幅広く歩いて対話を深めさせていただきたい、と考えています。

以上、三点申し上げましたが、変化の激しい環境下にあつて、司つかさで、責任を持つて、むだのない業務の遂行に当たることを基礎とし、これを束ねる総合事務局長が、上記三点の旗振り役になることによつてのみ、総合事務局がその名に恥じない仕事ができるものと思っております。

年頭にあたり、こうした気持ちで、事務局を率いてまいりますので、県民の皆様のご意見と温かい励ましを、心よりお願い申し上げます。